

## アンケート調査の実施結果から読み取れること

### ■保護者である回答者の大半は次のような傾向にある

- ・1学年当たりの学級数は2～3学級を希望
- ・1学級当たりの児童生徒数は20～30人を希望
- ・現在の通学区域に通わせることを希望
- ・現在の配置計画による学校配置基準を容認

### ■複式学級が見込まれる校区の保護者の回答傾向

- ・現在の配置計画による学校配置基準を容認している
  - ※上美生小中学校校区で50%、芽室南小学校校区では69%が現計画を容認
- ・複式学級を適正とは望んでいない
  - ※複式学級が適正とする意見は、上美生小中学校校区で5%に留まり、芽室南小学校校区では0%



次期配置計画は、近年の児童生徒の急激な減少を踏まえるとともに、10年先をも見据え児童生徒の最適な教育環境の確保を重視し策定する。

## 次期配置計画策定に向けた課題

- ・児童生徒が多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、話し合う中で思考力、判断力、表現力、問題解決力等を育み、社会性や規範意識を身に付けるための教育環境を維持するための在り方
- ・複式学級による教職員減、及び中学校における免許外教科担任の数が増加する可能性
  - ※生徒数の減少に伴い学級数が減少した場合、高校受験科目にあっても免許外教科担任が指導する可能性があり、特に教科指導面で生徒に不利益を及ぼす恐れがある
- ・特認校制度導入を希望するPTAの意向がある
  - ※現行の配置計画においても、上美生小学校・上美生中学校とも特認校制について検討することとしており、両校PTAから児童生徒数の増加を見込んだ制度導入の要望が寄せられている（アンケートでは、上美生小中学校区：5人、南小学校区：1人）
- ・小規模への通学を希望する保護者の存在がある
  - ※一部の保護者には小規模校通学を希望する意見がある（アンケートでは、芽小→上小1人、西小→上小1人、芽中→上中2人）